

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 19 日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	山内真理
研究課題	ICT 活用の外国語学習と自律的な言語学習者の育成				
研究キーワード	Duolingo, ゲーム型学習, リフレクション, フィードバック	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	10. 人や国の不平等をなくそう	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

オンライン教材を利用した「学習のサイクル」の多様な実現と柔軟な実施形態を目指して、VOA クイズ・授業内会話練習・音声トレーニング(洋楽利用)、ゲーム型学習 (Duolingo および Kahoot! / Quizlet Live) を活用した授業実践を行なった。23 年度は、自律学習促進を重視し、特に下位層の学習者に「学び方を身につけさせる」学習支援を目指し、一定の成果を得ることができた (下記論文および発表を参照)。

一方、オンライン教材を利用した授業、および自主学習を効果的に行うには「リフレクション」と「フィードバック」が不可欠である。2023 年度は、そうしたつまづき要因を整理・分析しつつ、適切かつタイムリーなフィードバックの体制を整える計画であった。特に、フォームの入力データを、生成 AI を利用して加工(分類)する、あるいは生成 AI によるフィードバック生成を行うシステム検討に着手したが、まだ実装できる段階には至っていない。ただし、これに関連して研究課題を練り、科研課題として採択されており、24 年度以降はこの面でも研究を進めたい。

2. 著書・論文・学会発表等 (査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文 (査読あり)】

【著書・論文 (査読なし)】

山内真理 (2024) リメディアル英語教育における口頭練習と想起練習の役割. 千葉商大紀要, 61(3), 53-86

山内真理・大勝裕史・村上眞紀 (2023) ゆるやかなオンライン協働ティーチングの試み. 千葉商大紀要, 61(1), 137-149

【学会発表等】

Yamauchi, M. (2024) Building Confidence and Skills: Oral-Aural Exercises and Retrieval Practice for Japanese EFL Learners. The 1st International Joint Conference for Student Success, Honolulu, March 4, 2024

Yamauchi, M., Murakami, M., Shirato, S., & Kato, S. (2024) Promoting English Self-Efficacy in Remedial EFL Students Through Extensive Oral-Aural Practice, Peer Interaction, and Spaced Retrieval Practice. The 22nd Annual Hawaii International Conference on Education, Waikoloa, January 5, 2024

山内真理・村上眞紀・白土さゆり・加藤澄恵 (2023) アウトプット重視の反復トレーニングによる自己効力感の向上. 日本リメディアル教育学会 北海道支部大会, 千歳, 2023.9.4

Google ツール+ChatGpt で教材作成・管理を効率化：動画利用教材を例として [Google Tools + ChatGpt for Efficient Creation and Management of Learning Materials: With Video-based Materials as Examples]. LET62 (第 62 回外国語教育メディア学会) 依頼ワークショップ. 2023.8.7

3. 主な経費

文献、各種オンラインツールサブスクリプション

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

科研費：生成 AI 活用の教育学修支援：リテラシーレベルに応じた活用可能性の体系化を目指す（基盤研究(C), 24K0621 (2024.4.1 - 2027.3.31)

デジタル教科書に関する調査研究委員(外国語部会)：活用事例集および研究成果報告書執筆

(本文は2ページ以内にまとめること)